

## 序 文

宇宙観測シンポジウムのスタイルは昨年度より変更され、そこで発表された講演は論文としてまとめていただき、宇宙科学研究所報告に「宇宙観測研究報告」特集号として掲載することになりました。今年度は、顕著な科学的成果の得られた研究について、その分野の進展状況の中での位置付けと新たに得られた成果の意義を含めて発表していただくものとししました。プログラム編成に当たっては、各講演に十分時間をとり他分野の研究者にも十分理解が得られる様に話していただき、活発な討論が出来るよう配慮しました。

これにともなって従来行われてきた搭載機器開発研究の成果は別の報告書にまとめることになりました。また昨年度は提案中の将来計画についてその目的と科学的重要性についての討論の項目がプログラムに織り込まれておりましたが、今年度はこの項目については他の研究会、シンポジウムなどに譲りました。宇宙観測シンポジウムを稔りあるものにするため、この新たな試みについてのご意見、ご提言をお寄せください。

世話人

向井 利典

長瀬 文昭

## Preface

The ISAS Symposium on Space Observations has changed its style from last year. Individual results under the development programs of space-borne instruments are going to be published in a separate issue. Future scientific programs under study are going to be discussed at other symposia and workshops. We attempted to make this symposium an opportunity for obtaining a comprehensive and up-to-date picture about the progress in various disciplines of space science and to promote active participation in extensive discussions. This special issue of the Report of the Institute of Space and Astronautical Science is a collection of the papers presented at the symposium. Opinions from readers are very welcome.

Organizers :

T. Mukai

F. Nagase